

たのしみは 必要

農業中心だった昔

おまつり 木場のしずの中心のようだった

年も豊年商作で 町は 徳出の 大まつり

どんどん ひやうらら どんひせうらら

とんどん ひやうらら とんひやうらら

朝からまこま 留木鉄

作物の收かくも 皆びようこんでいた

このお祭りでも 町内のおまつりが盛んで

おぎやかだったころがあった

テレビの出現で ひろくけテレビというつて

行つた

大型テレビが 道路に設置された 皆そこへ

見に行き 映像にか道山が去っていくと

大車の応援 手をとる見に来た同志

おきあつての 大さうが木 おりこりて

見られた

ともなく 個人の家たテレビが入り

ドラマ 教 とテレビ 見ろのは かつ

ころおびたつたのち

今は「下し」て見る毎日  
どうだ

たのしみは 個人の興味以外に  
何があつたか

たのしみが ありこの毎日  
とておそれ

思っている

その昔通のたのしみ  
存在する 語あり

かあり たのしみ  
大きく

明白は必ずあると  
思っている昔

それこそたのしみ  
たのしみ

未来への夢  
それをたのしみ  
か

日々進んでいき  
たい

2023  
5/16